

114  
A3787



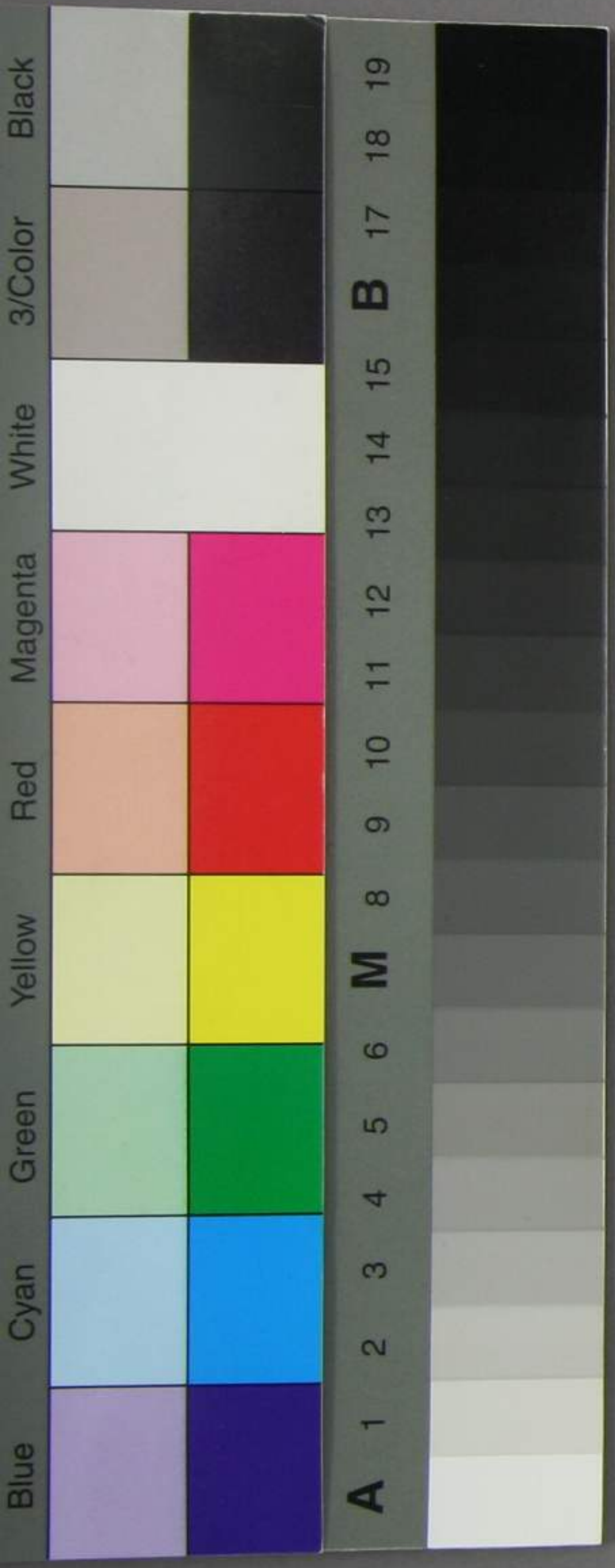
日本國砂糖ノ耕種

千八百八十年十月九日刊行

平井通雄譯

大正十一年四月  
侯爵邸寄贈

外國産物ノ漸次日本帝國ニ入り殊ニ砂糖ノ山國ニ入ル  
ノ景況ヲ掲グルハ無益ノ爭ニ非ス蓋シ該砂糖ノ消費高  
ハ近年此國ニ於テ甚メ大ニ増加セリ  
夫レ砂糖ノ耕種ハ日本ノ外交ヲ初メシ迄ハ薩摩并其屬  
島琉球及ヒ四國島ノ南部ニ限レリト雖モ日本初メテ外  
國ノ發明法方ニ由テ砂糖ヲ盛植スルノ方向ニ赴キ薩摩  
旧藩民ノ守舊者モ砂糖ヲ製センコトヲ企テ數十萬弗ノ價  
ヲ以テ巨大ノ甘蔗榨ヲ歐洲ニ覓メ之ヲ琉球島中ニ具ハ  
タリ此事實ハ曾テ困難ヲ極メシ琉球疑問ニ関シ支那政  
府ノ措テ之ヲ問ザリシハ事ノ経序ニ於テ視ルヲ得ベ



砂糖耕種ニ於ケル適當ノ肥料ヲ尋問シ付シテ終ニ其功  
ヲ奏セス而シテ薩摩官吏誤テ此不作ノ原因ヲ氣候ニ歸  
シ甚々速ニ其製造ヲ抛擲セリ然リト雖モ日本ハ衆多ノ  
便益中氣候地味及ヒ産物ノ便益ヲ得從來顯著ハ地ニ比  
スレハ頗ル高緯度ニ所在シテ幸ヒニ甘蔗ノ豊熟ニ適ス  
是レ有益ナル黒潮ノ作用ニ基クテ若クハ他ノ原因ニ係  
ル欽北方遙カニ南部地名ニ至テ甘蔗ノ十分ニ生長スルア  
リ又佛國ニ於テ特ニ南地ニ成長スル甜菜ノ蝦夷ニ於テ  
充分ニ繁生セリ

支那ニ於テヤンツキアン河口ノ砂島ニ生スル甘蔗ノ特  
別佳良ナル者ヲ除クアラハ寧波以北ニハ砂糖ヲ産スル  
ノ地ナシ是ヲ以テ日本ハ此ノ緊要ナル製造事業ノ益盛

大ニスベキヲ有テ前大藏卿大隈公及ヒ現今ノ内務卿松  
方公ハ充分ニ是ヲ察知シ其業ヲ勸メテ倦マス蓋シ其業  
ノ成功ニ至テハ此ノ兩公ノ尽力居多ナリトス

夫レ日本國ニ輸入セル砂糖高ハ三年前ニ倍ノ多キニ  
陟リ昨年ノ輸入ニ至リテハ十二年前ニ對照比較スレハ  
四倍ノ多キニ及ヒ有益ノ市價ヲ收ムルニ至レリ而シテ  
増加ノ割合斯ノ如クナルヲ考フレハ余輩ハ此ノ時ヲ以  
テ該事業ヲシテ盛大ニ至ラシムル充分ノ機會ト認ムル  
ナリ且日本國ハ假令此ノ内國品ヲシテ海外諸國ニ輸出  
スベキ充分ノ國産ヲ製スルニ至ラスト雖モ敢テ外國ノ  
輸入ヲ仰ズシテ内國品ヲ以テ自ラ支注スルニ毫モ障碍  
トスベキヲアラザルヤ昭々ナリ  
日本國及ヒ西島ハ島脈ノ一部分ヲナスカ

故ニ全世界中此ノ兩島ノ近傍ニ地位ヲ占ムル者ハ此ノ  
ニ國ヲ以テ糧食ノ重要ナル本原トセシテ其ノ糧食ヲフヒリピン及  
現ニ濠洲大殖民地ハ主トシテ其ノ糧食ヲフヒリピン及  
ヒマウリシオスノ兩島ヨリ輸入セルナリ而シテ該殖民  
ノ日本國ヨリ供給ヲ仰ザルヤ別ニ緣故アルニアラザル  
ガ故將來必ス日本國ヨリ之ヲ輸出スルニ至ルベシ」余輩  
ハ此ノ考説ノ結局ニ當リ當時結社台本ノ盛ニナルニ方  
リ砂糖ニ関シ一般ニ思慮スベキトアリ夫レ砂糖ハ貧民  
社會ノ為メニハ奢侈物ナリ而シテ貧民等ハ經濟上容易  
ニ消費ヲ止ムベキ第一ノ奢侈物トス其説ノ確實ナルヤ  
昔日ランカツシヤイル紡者ノ經驗ヲ顧ミテ一目瞭然タ  
ルナリ

日本帝國一般貧民社會ノ常食物ハ僅少ノ砂糖實ヲ含蓄

シ且衣裳ニ於ケルモ辛シテ身軀ヲ包括スルニ満足タレ  
而已然リ而シテ若シ砂糖ハ貧民社會ノ奢侈物ト認識セ  
ラレザルニ於テハ余輩ノ云フ所果シテ誤謬ナリカシテ  
貧民ニ於ルモ今一層困窮ヲ増シ之ニ墜落スルニ至ラバ  
全ク此物品ヲ用ザルニ至ルベシ

